

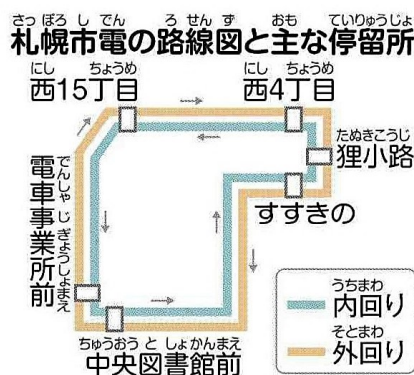


札幌市 中心部では、道路にしかれたレールを走る路面電車（市電）が運行されています。年間の利用者は約850万人。お年寄りや車いすを使う人が乗りやすいように、床が低い位置にある「低床車両」が増えるなど、バリアフリー化が進んでいます。こども記者まなっくの2人が、車両基地の電車事業所（札幌市中央区）取材しました。（石橋治佳）

市電 バリアフリー化進む



床の低い車両／ボタン黄色く



2人は札幌市の田鎖慧佑さん（北園小5年）と泉正太郎さん（東川小6年）。市交通事業振興公社の守屋勝史さんと森下恭介さんの案内で、低床車両「シリウス」について調べました。「優先席は色がちがって目立つ」。車内を観察した田鎖さんが言いました。一般の席は緑色

「まなっく」は、まなぶんの「まな」と「く」行く・書くに由来する愛称です

こども記者 まなっく 見ぶん録

ですが、こん色の席はお年寄りや障害者が優先的に座ることができま

ます。泉さんが「車内にどんな工夫

がありますか」と聞くと、守屋さ

んは「視力が弱い方は黄色が見

えやすいので、いろいろな所に

使われています」。優先席のシー

トを見ると、黄色い正方形の模様

がついています。つり革や降りる

時におすボタンも黄色です。

シリウスは全長約13メートルで、10

両あります。古い車両は床下に

モーターを動かすための機器類が

あるため、停留所より床が50センチ

ほど高いです。一方、シリウスは

天井部に機器類を組みこんでい

るため床が低く、停留所との段

差がありません。車いすで乗り

こみやすく、車内には車いすを

固定するスペースが2カ所ありま

す。

札幌市電は乗り続けると元の駅

にもどる「ループ状」の路線で

す。時計回りに走るのが外回り。

逆は内回り。路線図。1周は

約1時間です。

田鎖さんは低床車両がどの

くらい走っているか質問。守屋さ

んは「内回りと外回りそれぞれで、

1時間に1両以上が走っていま

す」と答えました。

シリウスは、車輪を収納する

ため床の一部を高くしなければな

らず、定員は約60人。古い車両

が約100人なのと比べ少ないこ

となども聞きました。田鎖さん

は「新しい車両でも、いいこと

ろだけではないと分かった」と話

しました。

車両だけでなく、停留所には

スロープや手すりを設けるなど、

90%近くがバリアフリー化されて

います。取材を終えた泉さんは

「バリアフリーをたくさん意識して

いてすごい」と感想を話しまし

た。

降りるときに押すボタンに黄色が使

われていることなど、「シリウス」

の車内でバリアフリーについて調べた田鎖慧佑さん（左）と泉正太

郎さん（右）

市電「シリウス」の床が低いことを見て、バリアフリーについて質問す

運転免許 6カ月間の教習必要

路面電車は多くの人を乗せて駅から駅まで走ります。事故なく、時間に正確に運行できているのは、運転手がいろいろなことに気をつけているから。まなっくの2人は運転手についても聞きました。

田鎖さんは「市電の運転免許は一般の人にも取れますか」と質問。運転手は大学、短大、専門学校などを卒業した人が応募できます。筆記試験や面接試験で合格したら、札幌市交通事業振興公社に入り、市電の運転免許を取るため約6カ月間の教習を受けます。

運転手になってからも、気はぬけません。市電を安全に運行するため、運転手一人一人

が体調を整えることが重要です。飲酒運転しないように、出勤したらアルコールチェッカーという機器で飲んだお酒が体に残っていないかを調べます。

多くの電車は、車庫を出たら何周も回り続けますが、運転手は「電車事業所前」という駅で交代します。泉さんは「何時間で交代しますか」と質問しました。守屋さんは「だいたい約2時間、2周ごとです。短い時は1周。3周はできません」と説明しました。

路面電車の仕事をする従業員107人のうち、運転手は63人（このうち女性は4人）で、教習にはげんでいます。

運転手が出勤した時に行く「点呼」やアルコールチェッカーについて説明を受けるまなっくたち



す。年齢は20～60代で、40代が一番多いです。この春、新しく5人が仲間に加わりました。市電の仕事に移った2人の先輩職員とともに、教習にはげんでいます。